

2009年1月24日

ルオー保護区および周辺地域の活動報告

京都大学霊長類研究所
古市剛史

ルオー保護区およびその周辺地域では、類人猿の生息地の保全を推進するため、予算計画に即して以下の活動を行った。1) 2) の活動は、地域住民の森林保全に対する理解を大きく前進させることに貢献し、3) の保護区拡張に対しても、住民サイドからのきわめて積極的なサポートを得ている。

なお、実際の活動と予算の執行は、現地で活動を続ける特定非営利活動法人ビーリア(ボノボ)保護支援会を通して行った。また、本年度の収支残金は、来年度引き続いて同様の活動に使用する予定である。

1) 診療所の運営支援

ルオー保護区周辺は、内戦を経て無医村に近い状態になっており、住民の最大の要求は医療サービスの充実である。この要求に応えて保護活動への協力を得るため、2006年以来保護区内のワンバ村で診療所の建設を進めてきた。2008年、ようやくその建物が完成し、保護区のあるジョル県の公共診療所として運営が開始されることになった。公共の診療所として運営される以上、受益者負担の原則に立って自立的に運営されることが期待されているが、運営の開始を支援するため、基本的な医療器具、医薬品を購入して寄付した。

2) 道路、橋梁、空港等のインフラストラクチャーの整備

内戦を経て疲弊したこの地域の経済を再建するには、豊富に生産される農作物を近隣の都市部に搬出して現金収入を得られるようにするのが何よりも大切であるが、道路、橋梁、空港等のインフラストラクチャーの荒廃が障害となっている。これを立て直すため、ジョル県県庁およびルオー郡郡庁に1,000ドル規模の再建計画を立ててもらい、その進行をチェックしながら資金援助を行った。

3) 保護区拡張のための密猟の監視とボノボの生息実態調査

ルオー保護区は約480平方キロメートルという小さな保護区だが、2007年に、隣接する2つの村がその森林の大半をルオー保護区に組み込むことを提案し、ルオー保護区を管轄する生態森林研究所が、保護区拡張のための交渉と手続きを進めている。この拡張が実現すれば、保護区の面積は現在のほぼ3倍になり、長期にわたる地域個体群の維持に大きく寄与することになる。保護区拡張が実現し、生態森林局による保護・管理体制が整うまでの間の経過措置として、3名の森林保護官を雇用し、密猟等の監視、ボノボの生息実態の基礎調査にあたらせた。

2008年度ルオ－保護区収支計算書

2008年1月1日から2008年12月31日まで

京都大学霊長類研究所
古市 剛史

科 目	金 額	備 考
I 収入の部		
寄付金収入	1,900,000	日本モンキーセンターより振り込み
当期収入合計(A)	1,900,000	
前期繰越収支差額(B)	0	
収入合計(C)	1,900,000	
II 支出の部		
消耗品費	602,775	診療所薬品・医療器具購入費(5,130\$)
補助金	117,500	Djolu県道路整備等補助金(1,000US\$)
	117,500	Luo郡道路整備等補助金(1,000US\$)
雑給	450,000	森林保護官謝金(50,000FCx12ヶ月x3人)
当期支出合計(D)	1,287,775	
当期為替差益(E)	0	
当期収支差額(A) - (D) + (E)	612,225	
次年度繰越収支差額(C) - (D) + (E)	612,225	